

未来のこどもたちのために今やろう！

— 新潟市の課題解決特効薬 —

日本海ドームシティプロジェクト

日本海ドームシティプロジェクト 新潟市民の会

新潟市の未来へ、今やるべきこと

今プロジェクトは、未来の新潟市への大きな投資です。

そして、現在から未来へ抱える多くの課題を解決する大切な鍵です。

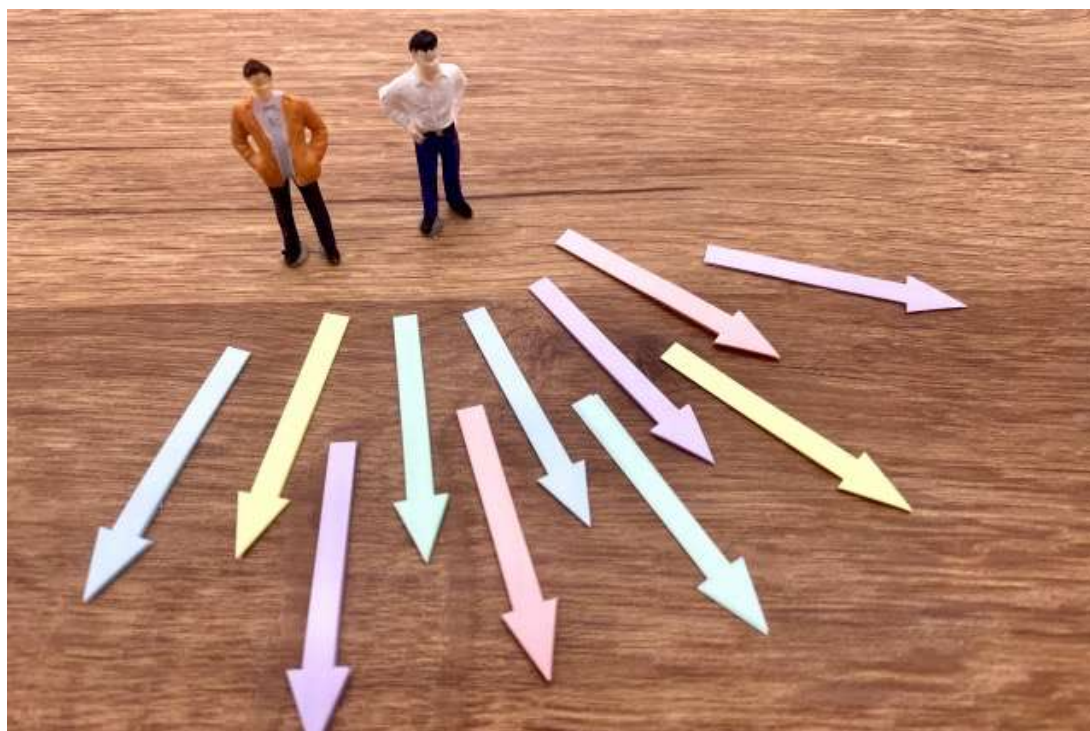
本州日本海側唯一の政令指定都市「新潟市」は、

未来の発展に向けて大きな課題を抱えています。

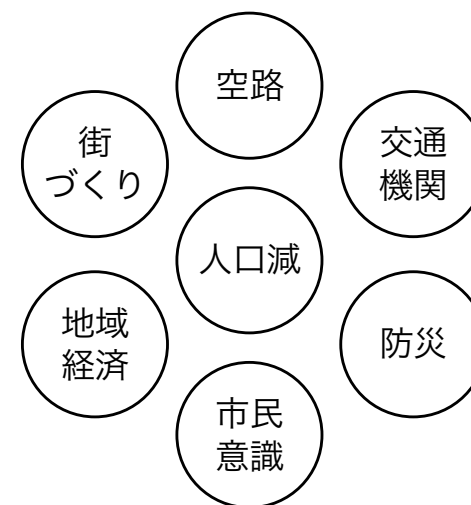
その課題を解決するために、今取り組むのがこのプロジェクトです。

現在から未来に目を向けて、新潟市が抱える課題は多くあります。
抱える多数の課題をひとつひとつ解決していくのは時間と労力がかかります。

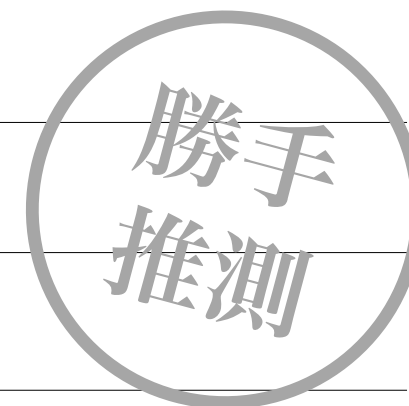
これら課題を一気に解決方向へ向かわせてしまう、
それが、日本海ドームシティプロジェクトなのです。



新潟市が抱える課題



-
- ① **交流人口の減少** 観光・ビジネスにおいて新潟へ足を運ぶ人は少なくなっています
-
- ② **人口の減少** 首都圏への人口の流出に歯止めがかかりません
-
- ③ **中心地の衰退** かつての繁華街「古町エリア」も様変わりしてしまいました
-
- ④ **宿泊施設** 新潟市には大規模コンベンション対応の五つ星ホテルがありません
-
- ⑤ **公共交通機関** 脱炭素時代に向けた公共交通はバス依存でいいのでしょうか
-
- ⑥ **新潟空港の不振** 空路・利用者の減少で経営も不安定です
-
- ⑦ **地域経済** ヒト・モノ・カネ・情報が動かず大きな効果がありません
-
- ⑧ **Uターン人口** ふるさとに戻ってくる若者が増えません
-
- ⑨ **防災拠点** 多発する自然災害に安心を提供する大きな避難施設などありません
-
- ⑩ **市民プライド** あきらめムードが蔓延し、未来に夢が抱けなくなっていますか

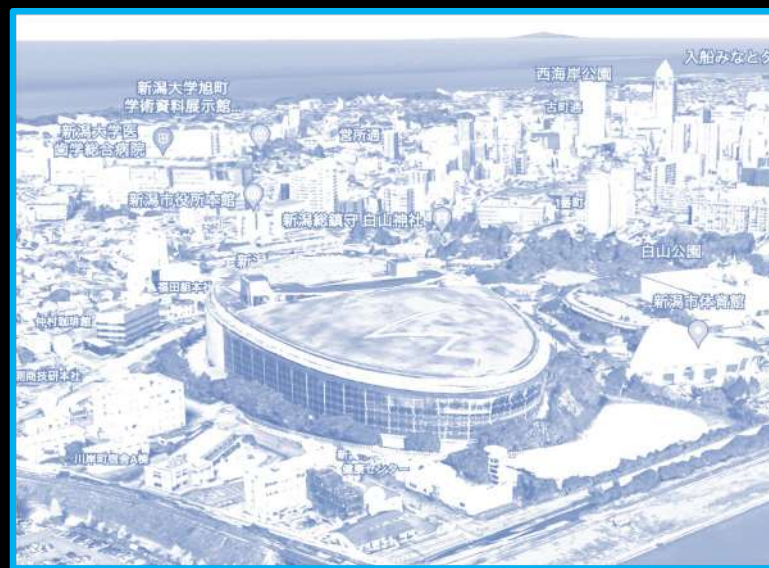


日本海ドームシティプロジェクト新潟市民の会には2つの大きな使命があります。

1 新潟市にNPBプロ野球球団を誕生させる



2 本拠地としてドームシティを建設する



日本海ドームシティプロジェクトWG 東海林健 佐藤博迪 安齋萌 金子柚

そして、世界一ワクワクする新潟市へ

日本のプロ野球（NPB）では、球団数のエクспанション（拡張）がずっと叫ばれています。プロ野球OBの王貞治氏、田尾安志氏、石毛宏典氏、古田敦也氏らが、その重要性を訴え、2022年10月に新潟市のハードオフエコスタジアムで開催された「プロ野球OB交流試合」では、参加した各OBが口々に新潟市でもプロ野球球団誕生を応援したいと表明していました。球団数のエクспанションを実現する最初の地として新潟市への注目も集まっています。

自民党の日本経済再生本部がまとめた「日本再生ビジョン」の提言で「NPB16球団構想」を発表。（2014年）

「NPB球団の空白地域」になっている新潟市、静岡市、松山市、沖縄県では、NPB球団設立の動きがあり、沖縄県では琉球ブルーオーシャンズが設立。（2019.7.18）



プロ野球のレジェンドたちが新潟にエール！



2022年10月2日にハードオフエコスタジアムで行われた

野球伝来150年プロ野球選手OB記念試合Dream Match NIIGATA 2022に駆けつけてくれたプロ野球往年の名選手たち。

2022年12月30日にその模様が放送されたNST「新潟の夢プレイボール！ Dream Match NIIGATA 2022」では、

口々に新潟への期待とエール、協力を約束してくれました。



ドーム球場配置イメージ図

白山エリアの景観や周辺環境との調和を図り、緑や自然を感じさせる「りゅーとぴあ」と同様のイメージでスケールアップさせてドーム球場を配置したものです。

信濃川から日本海までの連続する緑と自然を感じさせることで、地の記憶を活かしながら新たなドーム球場を建設します。

※ドーム球場開発は、都市の活力創出調査結果と合致します。

新潟市を真ん中から元気に

新球団の本拠地として有力視しているのは、新潟市中央区の新潟市陸上競技場の白山エリアです。

土地は、新潟市からの無料貸与という形を取り、民間による建設と運営を行う予定です。



新潟市陸上競技場は、老朽化が進む鳥屋野運動公園野球場を取り壊し、新たな陸上競技場を新設するプランも。

日本海ドームシティプロジェクトWG
東海林健 佐藤博迪 安齋萌 金子袖

プロ野球以上のエンターテインメントを新潟市に

新たに白山エリアに建設されるドームシティは、ドーム球場とホテルや様々な施設が融合した多機能複合施設です。

プロ野球公式戦が開催される日以外（オフシーズンも含む）は、コンサートツアーや各種エンターテインメントで使用できます。これまで新潟市にはなかったスケールの大きなドーム球場使って、多彩な大規模イベントが開催できます。



◎国際見本市など各種展示会・イベントの開催

◎アーティストによるライブ・イベント開催

◎日本6大ドームツアーなど芸能イベント開催

◎e-Sportsなどの国際イベント開催

●NPB公式戦の開催

●MLBのオープン戦などを開催

●WBCワールドベースボールクラシック開催

●ボクシング世界タイトルマッチ開催

●日本プロバスケットBリーグの公式戦開催

●バスケットボールNBAの試合開催

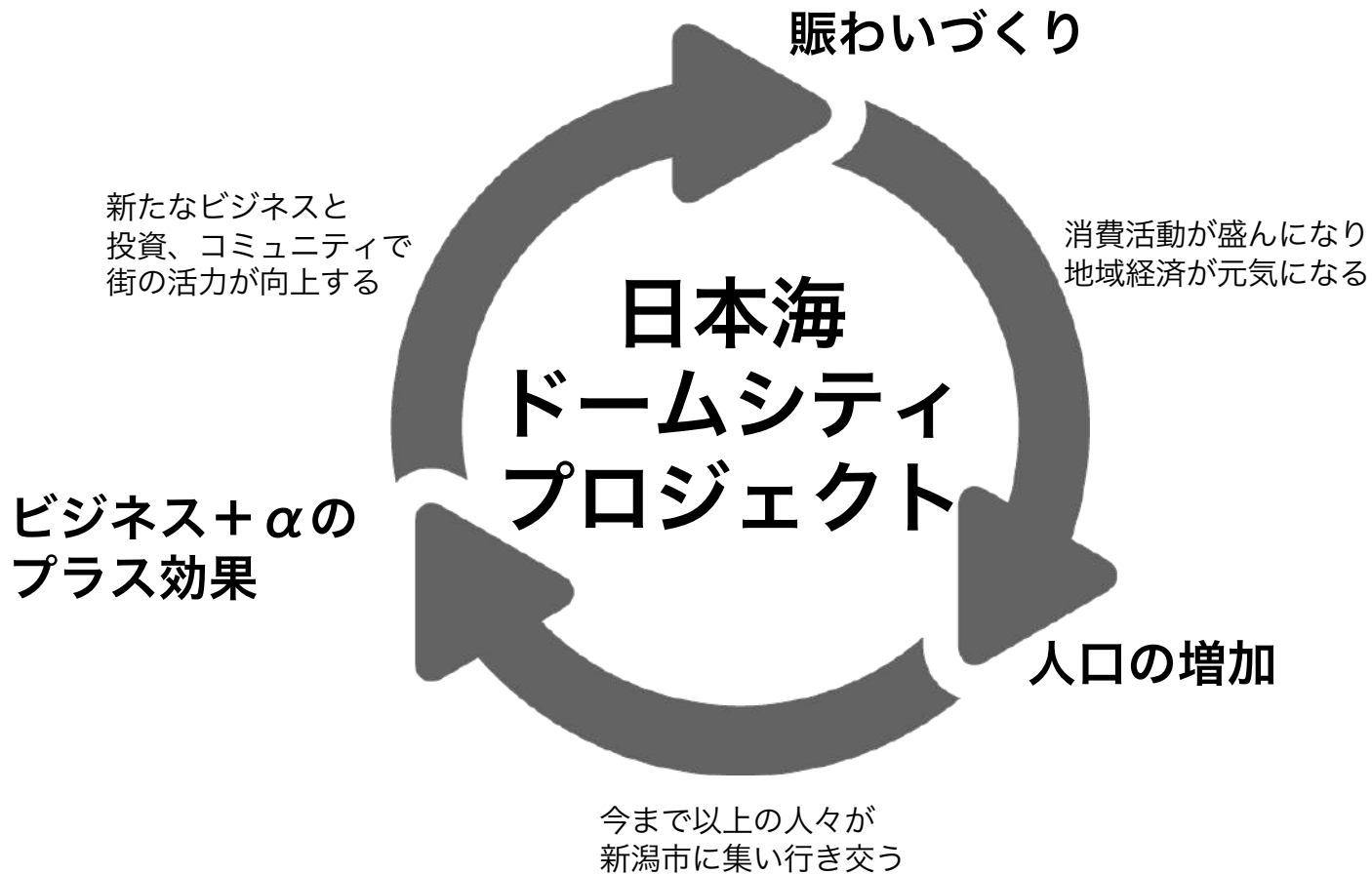
●卓球・体操・柔道・剣道等の公式戦・国際大会戦開催

●スノーボードX-TRAIL JAMの開催

●ジャパンラグビートップリーグ・W杯の開催

●アメリカンフットボールリーグ「Xリーグ」の公式戦開催

●自転車競技国内・国際大会開催 他



多くの人々が集まり行き交う街、そこには多くのビジネスチャンスが生まれ
自ずと活気が生まれる、そうなれば市民プライドも生まれる



新潟市の未来を明るく照らす



**日本海ドームシティプロジェクトが
新潟市の未来への課題を一気に解決**

① 交流人口の減少

新潟市って、大丈夫？観光都市でもないけど人が少なくなっていない？

新潟市の交流人口、とりわけ観光入込客数は減少傾向を辿っています。

本拠地で年間約70試合を行うプロ野球球団があれば、それだけで**約170万人以上**の方々が新潟市でプロ野球を楽しむ計算になります。他県、他球団応援団らが多く訪れ新潟市の交流人口が拡大します。

さらに、プロ野球の公式戦は年間約70試合。それ以外は、コンサートツアーや各種エンターテインメント、ビジネスショーなどのイベントで使用すれば、来客数は**プロ野球以上**になることが予想されます。

解決
方向

たくさんの方が足を運ぶ新潟市へ



2022年セ・パ公式戦 入場者数

入場者数	21,071,180
試合数	858
1試合平均	24,558

NPB公式ホームページ<https://npb.jp/statistics/2022/attendance.html>より

年間170万人以上の観客

$24,558 \times 70 \text{ 試合} = 1,719,060 \text{ 人}$

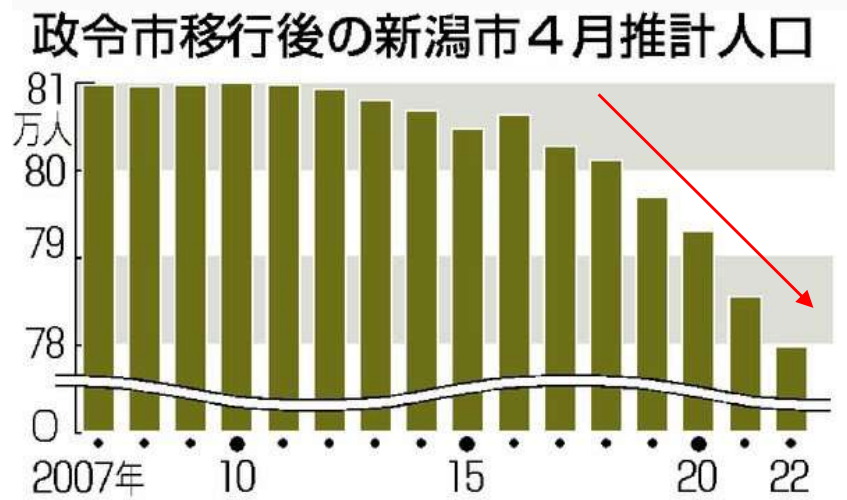
130万人集客のWBC

日本代表の3大会ぶりの優勝に終わった第5回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）の観客数は合計130万6414人で2017年大会から約20%アップの新記録となった。

決勝戦は、米国代表が優勝した2017年大会決勝戦から69%もアップした520万人が視聴。大谷翔平がトラウトを三振に仕留めゲームセットの瞬間は610万6000人が視聴した。

2023年3月23日 9時55分スポーツ報知

② 人口の減少 やっぱり新潟市より東京の方が楽しそうだし・・・



新潟市の2022年4月1日現在の推計人口は政令市移行後初めて78万人を割り、**77万9988人**。**前年同月比で5639人の減**。2007年の政令市移行時は約81万人が、近年は減少傾向が止まりません。
2022年4月30日 新潟日報

新潟市内にプロ野球やエンターテイメントで活気が生まれれば、新潟市に魅力を感じる若者も多くなり、流出人口に歯止めをかけることができると思います。



解決方向

若者たちも楽しみ暮らす新潟市へ

③ 中心地の衰退

あの頃の新潟市って街に活気があったよね

かつては座敷文化、若者たちの流行発信地として名をはせた古町エリアに活気が戻ります。プロ野球観戦、コンサート、展示会など、ドームシティに訪れる方々をはじめ多くの人々にとって、新潟の味覚や文化をお膝元で楽しめる街・古町として再興します。

新潟市が取り組んでいる新潟都心のまちづくり「にいがた2km」と日本海ドームシティプロジェクトが合体することで、大きな目標が明らかになり、官民一体となった大規模な新潟のまちづくりが始まります。

2km × 日本海ドームシティ



解決
方向

新時代のまちづくりが進む新潟市へ

④ 宿泊施設

エグゼクティブが宿泊したくなるホテルってないよね

海外富裕層、インバウンドはもちろん、各種国際レセプションなどに対応したいいわゆる五つ星ホテルが新潟にはありません。日本海ドームシティプロジェクトをきっかけに、ヒト、モノ、カネが新潟に集まるようになると、市場として大型の投資も期待できます。新潟にこれまでなかった高級五つ星ホテルが建設されるかもしれません。宿泊地としての新潟市が一気にグレードアップします。

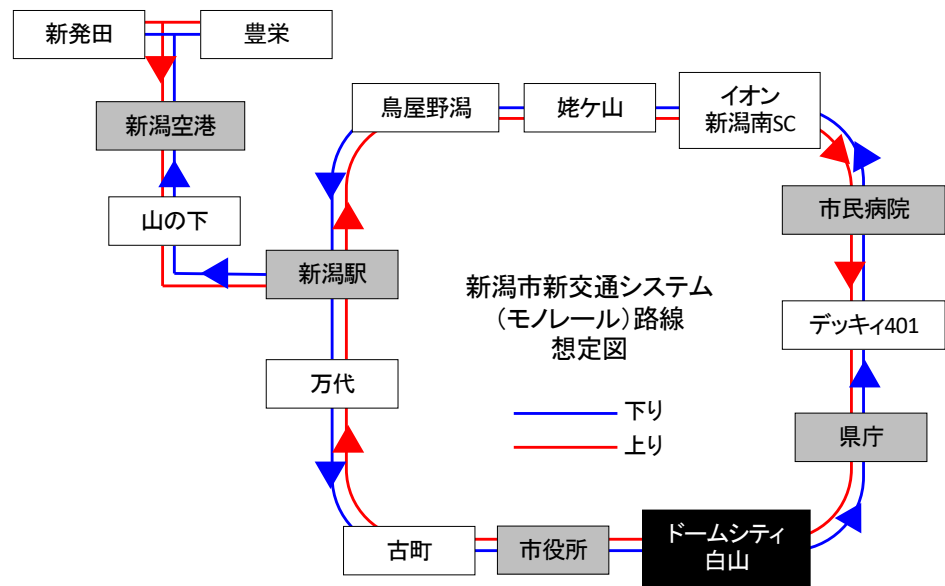


解決
方向

おもてなしの品格が上がる新潟市へ

⑤ 公共交通機関 使いたくなる公共交通手段がないよね・・・

未来的な脱炭素、脱マイカー時代に呼応できる新潟市の公共交通機関は、現状ではバスが支配的です。しかし、プロ野球球団とドームシティができることで、新潟市内を回遊する公共交通機関への需要が生まれます。かねてより話題になってきたモノレールを新潟市内に配備することで脱炭素時代の市民の足が誕生します。



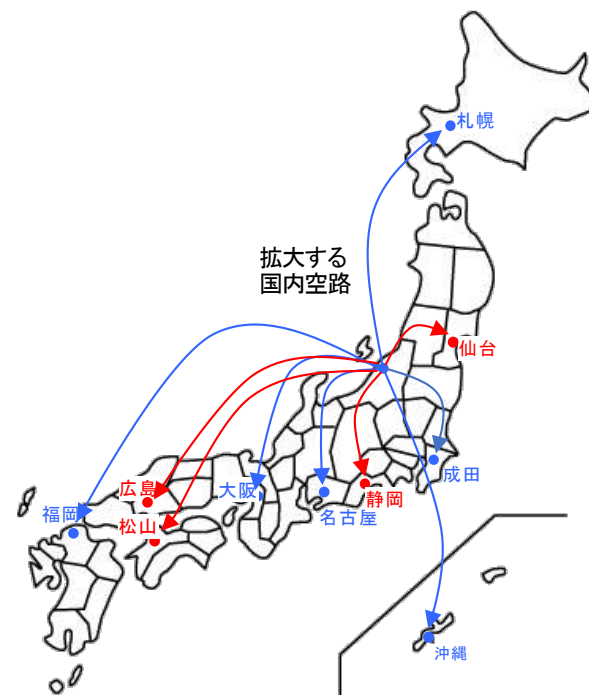
**解決
方向**

移動基盤を再構築する新潟市へ

⑥ 新潟空港の不振

やっぱり、飛んでる本数が少ないし、市民も頻繁には利用しないし・・・

国内、国際線の減少、利用者の現象により、新潟空港の不振が取り沙汰されています。新潟県としては、便数と利用者数が伸びることで、民間事業者による管理運営も可能と考えていますが、日本海ドームシティプロジェクトで、プロ野球球団の他本拠地（広島、仙台、福岡、名古屋、大阪、兵庫、札幌）などとの便数が拡大し、利用者も多くなります。これによって民間運営による不安のない新潟空港が再整備されると考えます。



解決
方向

空路が充実する新潟市へ

⑦ 地域経済

大きなプロジェクトがないとビジネスも伸びないよねえ

新潟市にプロ野球球団、ドームシティができることで発生する経済効果は計り知れません。北海道日本ハムファイターズが札幌に移転した時よりも大きな経済効果が生まれるでしょう。首都圏とのアクセスの良さとエンターテインメントの展開などでもたらす効果は絶大に。



2016年
北海道日本ハムファイターズによる
経済波及効果は**260億円以上**

<北海道銀行グループ 道銀地域総合研究所調べ>

東北楽天ゴールデンイーグルス
経済効果の推移

2019年 約**237**億円

2010年 約**138**億円

2005年 約**121**億円

<宮城県震災復興・企画部>

球団経営も
盤石に

解決
方向

大きな経済効果で潤う新潟市へ

⑧ Uターン人口

帰ってきたくなる街になるといいよね

例えば、東京で一人暮らしの若者が、テレビでプロ野球中継を観戦したとします。画面に映るのはふるさと新潟のドーム球場で、そこには多くの観客が押し寄せています。コンサートなどのエンターテイメントでも会場は日本海ドームシティとなると、ふるさとの地で行われるイベントに無関心ではいられないはずです。新潟市へUターンを希望する若者たちが増えるのはごく自然なことです。



解決
方向

▼
若者たちが帰りたくなる新潟市へ

⑨ 防災拠点

何があっても安心して避難できる施設ってこれからは必須ですよ

気候変動などによる水害、そして地震など。大規模な自然災害が発生した時の対応策が叫ばれています。仮設住宅ができるまでの間、雨風の心配なく、多くの方々が避難できるドーム球場と周辺施設は大きな役割を果たします。また、鉄路、陸路のアクセス性を活かせば、隣県からの被災者を受け入れることもできます。新潟市の防災拠点性が一気に高まります。



<新潟の大地震>

- 昭和39年 新潟地震
- 平成16年 中越大震災
- 平成19年 中越沖地震

<日本の大地震>

- 平成23年 東日本大震災



新潟は過去の地震からノウハウを蓄積。日本海側という地政学的な面から防災復旧支援で注目を集めました。

日本海ドームシティは、北陸圏、関東圏、東北圏において生命と財産を守る重要な施設になります。

ハリケーン「カトリーナ」の被害により避難所となったアストロドーム（2005年・アメリカ）

解決
方向

安心、そして誇らしい新潟市へ

⑩ 市民プライド 一人ひとりが新潟市に自信を持って力を合わせていくべきでしょ

新潟の方々がどれだけふるさとに誇りを持っているのか。残念ながら現状は自慢できるほどではありません。しかし、日本海ドームシティプロジェクトによってプロ野球球団とドームシティができることで、「おらが自慢の新潟市」となるはずです。

このプロジェクトもしかりですが、端っから「そんなのは無理だろ」といった諦めムードを払拭して、市民主導でこのプロジェクトを成功させようではありませんか。未来のこどもたちのために、持続可能な新潟市づくりはこのプロジェクトからスタートします。



市民のプライド・ランキング
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(2018)

東京都区部+政令市
「誇り」ランキング

誇り		
順位	都市名	得点
1	福岡市	39.5
2	京都市	38.5
3	神戸市	25.5
4	札幌市	24.5
5	仙台市	20.5
//	横浜市	20.5
7	熊本市	18.5
8	広島市	14.5
9	東京都区部	7.5
10	静岡市	5.0
11	北九州市	2.5
12	浜松市	1.5
//	名古屋市	1.5
14	川崎市	0.0
15	新潟市	-3.5
16	大阪市	-7.0
17	堺市	-8.5
18	さいたま市	-9.5
//	千葉市	-9.5
20	岡山市	-10.0
21	相模原市	-18.5

(出所)三菱UFJリサーチ&コンサルティング

解決
方向



未来が明るい新潟市へ

日本海ドームシティプロジェクトから始まる

—シビックプライドの醸成—

新潟が好き、新潟を誇りに思う、未来が楽しみ

新潟市にプロ野球とエンターテイメントが誕生することで、
多くの改題が解決され、人が集まり街に活気が生まれます。

ワクワクするこの街が好き、だからずっと新潟市で

社会環境整備もそれに伴い進められ、ますます住心地の良い街になります。
新潟市民プライドが生まれ、この街でずっと住みたいと思うようになります。
そんな市民意識こそが、これからの未来づくりの最大の追い風になります。